

- ・ Web 媒体を活用した情報発信

SNS やブログ、HP 等を活用し情報を発信します。※詳細は、「イ より多くの利用を図るために行う広報・PR 活動の内容等」 p.33～34、36 参照

- ・ 問い合わせ対応（電話・メール）

安全登山のための情報や花の開花情報等に係る問い合わせに、電話及び電子メールで対応します。

- ・ 自然公園だよりの発行（再掲）

都市公園等で配架する「自然公園だより」に安全登山やマナーに関する情報を掲載します。※詳細は、「イ より多くの利用を図るために行う広報・PR 活動の内容等」 p.34 参照

■ 丹沢を訪れた自然公園利用者への情報提供と普及啓発

丹沢を訪れた自然公園利用者に対しては、VC の展示や対面での対応のみならず、自然公園内に設置された看板等により、安全登山やマナーに関する情報提供をします。また、両 VC のプログラムによる普及啓発にも努めます。

- ・ 館内や施設周辺での対応

登山道の情報(迂回路情報等)や気候（雨、雷、熱中症、雪、凍結）の注意点、花の開花情報等について、館内や施設周辺で伝えます。

- ・ 館内での展示・掲示

天気情報(毎日)、利用マナーや安全登山のための基本的な情報、注意が必要な動植物の出現情報、季節の見どころ情報などを館内に展示・掲示します。

※詳細は、「ア より多くの利用を図るために実施する事業の実施方針、内容等」 p.29～32 参照

- ・ チラシやパンフレット類の配布

安全登山や登山マナーに関するチラシ等を両 VC 内で配布します。また、外国人に対応した英語版チラシも用意します。

※英語版チラシの詳細は、「オ 神奈川県手話言語条例や外国人への対応等」 p.43 参照

・地域と連携した安全登山の普及啓発

秦野 VC :

西丹沢 VC :

※詳細は、「5 地域と連携した魅力ある施設づくり」p.59～60 参照

・プログラムによる普及啓発

安全登山・自然に優しい登山に必要な技術や知識等について学べるプログラムを実施するほか、秦野 VC では、館内だけでなく登山道まで赴き、登山道トークにより山の利用マナー、安全登山のための情報等を紹介します。

※詳細は、「ア より多くの利用を図るために実施する事業の実施方針、内容等」p.22～27 参照

・安全登山をテーマとした企画展の開催

丹沢の遭難事例の紹介等により安全登山の普及啓発に資する企画展を開催します。

※詳細は、「ア より多くの利用を図るために実施する事業の実施方針、内容等」p.32～33 参照

(ウ) 情報の蓄積と活用【DX】

収集した情報は、

登山者への情報提供等に活用します。

【実績】過去の蓄積情報を活用した館内展示の作成

秦野 VC 内の常設展示「山ろくさんぽ」では、月2回程度のスタッフの情報収集をもとに、VC 周辺散策路のコースで見られる花や生き物の写真を展示しています。本取組を開始した平成24年から蓄積したデータを活用し、「生きもの暦」や「季節に合わせたワンポイント解説」なども作成し、展示しています。

オ 神奈川県手話言語条例や外国人への対応等

神奈川県手話言語条例に基づき、手話の利用環境の向上に努めるほか、外国の方への多言語での対応を進めます。さらに、「ともに生きる社会かながわ憲章」の趣旨を踏まえ、障害者差別解消法及び神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例に基づく事業者の責務を果たすとともに、障がい者への合理的配慮、高齢者への配慮、子育て世代が安全・快適に利用できる環境を整え、インクルーシブな対応を推進します。各種対応の内容は HP やパンフレット、館内掲示等で情報提供します。

(ア) 神奈川県手話言語条例への対応

するほか、コミュニケーションボードの活用その他、筆談や大きな声で対応する用意ができていることを示す「耳マーク」を掲示します。

職員への教育

手話の使用環境、
聴覚障がい者の利
用環境向上

- ・コミュニケーションツール（コミュニケーションボード）を設置
- ・電話以外の問い合わせツールの用意（電子メール、FAX）

(イ) 外国人利用者への対応

首都圏在住の外国人や日本へ海外旅行で来られた外国人など、丹沢への外国人登山者は増加しています。こうした外国人登山者に向けても多言語での対応に努め、自然公園の利用マナー向上や遭難防止を図ります。

受付・案内での配慮	・コミュニケーションボードの設置 ・簡易な英語対応は職員が窓口で対応
展示・掲示物・情報発信等での配慮	・JIS規格に準じた当協会オリジナルピクトグラムの活用 ・QRコード読取などによる多言語音声ガイドサービスを活用した館内展示の多言語解説（再掲）【新規】【DX】 ・HP、パンフレットの4ヶ国語言語対応（QRコードを活用） ・英語の注意喚起の表示による遭難防止の呼びかけ ・公共交通機関の英語案内の配布

【実績】英語版安全登山チラシ

⇒安全登山を啓発するチラシを英語併記で作成、配布しました。



ピクトグラムの例

(ウ) 障がい者への対応

合理的配慮により、障がい（身体、知的、精神、その他の心身の機能障がい）のある方とその家族、支援者、介助者等が利用しやすいサービスを提供し、心のバリアフリーを念頭に置いた利用者対応に努めます。

■物理的環境への配慮（障がいに応じた利用への配慮）

車椅子貸出	自然観察会の開催
-------	----------

■意思疎通の配慮（障がいに応じた意思疎通への配慮）

視覚	
聴覚	・コミュニケーションボード等の設置 ・「耳マーク」の掲示による聴覚障がい者への筆談などの配慮
共通・その他	・ピクトグラムの設置 ・家族・介助者等コミュニケーションを支援する方への丁寧な対応

(エ) 高齢者への対応

老眼鏡やルーペ等の設置を行い、高齢者も気軽に来館しやすい環境を整えます。

- ・車椅子貸出（秦野 VC） ・老眼鏡・ルーペの貸出
- ・ゆっくり大きな声で聴きとりやすい案内を意識した対応

(オ) 子育て世代への対応

子育て世代の利用が多い「みんなのコーナー」（秦野 VC）は、親やスタッフの目の届きやすい位置に設置します。

皆が親しみをもって安全に利用できる環境を整備します。

- ・子ども用便座の貸出 ・小便器へ男児用の踏み台の設置 ・掲示物へのルビ振り ・おむつ交換台等の子育て支援情報の提供（HP、子育て支援サイト等）

カ 施設の特徴をより効果的に活かすために行う自主事業の内容等

(ア) 登山や自然観察関連の物品販売

VC 利用者の利便性を高め、安全・快適な野外活動を支援するため、物品販売を行います。

- ・登山の必需品である地図などを販売することで、安全な登山をサポート
- ・丹沢の自然をより深く知るために、[REDACTED] 自然観察関連グッズを販売することで、より充実した自然体験を支援
- ・登山や自然観察の専門用品を展示販売することにより、これまで関心が低かった利用者の興味を引き出す

[REDACTED] を販売することで、登山等のお土産需要にも応える

設置場所	秦野 VC、西丹沢 VC		
販売品目	<登山者向け用品等> [REDACTED]		
	<自然観察関連グッズ> [REDACTED]		
	<お土産> [REDACTED]		
	[REDACTED]		
販売場所	受付カウンター	料金	[REDACTED]

※販売品の調達・販売は VC 職員が行い、これに要する時間の人件費は自主事業の収入を充てます。

(イ) 講師派遣

丹沢の地形、動物、植物、歴史などについて、学校の授業などで学べるよう、専門的知識を持つ職員を小・中学校や各種団体等に派遣して、屋内での講義や野外での自然観察会などを実施します。

開催場所	施設（学校など）、野外自然観察会については VC 周辺など		
内容	屋内での講義や野外での自然観察会など		
実施頻度	適宜	料金徴収	[REDACTED]

※講師は専門的知識を有する VC 職員が行い、高いサービス水準を保持します。また、これに要する時間の人件費は自主事業の収入を充てます。

(ウ) 有料プログラム【新規】

丹沢で活動する専門性の高い団体等との共催で、利用促進プログラムより、深く丹沢の自然を知ることができ、レジャーとしても楽しめる「有料プログラム」を実施します。こうした取組により、団体等の活性化や活動の広がり等にも寄与します。

開催場所	丹沢・大山国定公園・神奈川県丹沢大山自然公園内（屋外・VC 館内）		
内容	解説付き登山、インバウンド向けガイドや写真等の教室 絵画、クラフト等の教室		
実施頻度	適宜	料金徴収	[REDACTED]

※専門性の高い団体等との共催で実施し、プログラム実施に必要な専門人材や必要器材は基本的には共催団体等をお願いすることを想定しています。団体等への費用の支払いは、参加者からの参加料収入を充てます。

※指定管理者である当協会もプログラムの企画・実施に積極的に関わり、サービス水準や安全性の確保に責任を持って対応します。

(2) 一体運営により可能となる利用促進のための企画・取組

ア 一体運営により展開する、利用促進のための企画・取組

(ア)実施方針

これまでの管理で培った経験やノウハウを活かし、両 VC の特徴・機能等を活かした合同プログラムの提供や、両 VC 一体となった広報・PR の実施、職員の相互派遣や物品の共有等を通じて、利用者の増加のみならず、より効果的・効率的な施設運営を図ります。

また、当協会の強みを活かし、都市公園等とも連携したイベントや広報・PR を行い、広く多くの方に自然公園への理解を促進するとともに VC の利用促進にも繋がります。

(イ)具体的な取組内容

a イベントプログラムの実施

■両 VC 連続講座等の共同プログラム

2つの VC が設置されている地域は、

[REDACTED]

双方

の VC に立ち寄る仕組みを作ります。

【実績】秦野・西丹 VC 合同地学教室(令和 5 年度)

夏休み(8月)に「EAST 編」「WEST 編」と2日間に分けて連続講座として実施
<企画のねらい>

[REDACTED]



河原で岩石採集を行う様子

【実績】カードを集めて丹沢図鑑を作ろう！【拡充】

丹沢の動植物の「丹沢ワイルドライフカード」を作成し、現在配布している両 VC のみならず、周辺施設でも配布し、リピート利用や周遊を促進します。

※詳細は、「5 地域と連携した魅力ある施設づくり」 p.57 参照



■周辺都市公園等と連携した共同企画

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

【実績】3館合同イベント（みんなで登る・学ぶ・作る）（令和4年度）

3施設を巡って3つの体験を楽しんでいただくイベント



登る・体験クライミング
(山岳スポーツセンター)



学ぶ・ネイチャートーク
(秦野 VC)



作る・クラフト
(秦野戸川公園)

b 情報収集・発信

■両 VC で連携した情報収集・情報共有

両 VC 間でエリアを分けて情報を収集するとともに、綿密な情報共有を図り、西丹沢 VC の休館日は秦野 VC が利用者へ必要な情報提供をするなど、連携して対応します。

※詳細は、「エ 適正で安全な自然の接し方などの情報提供の取組等」p.39～40 参照

■両 VC で連携した情報発信

両 VC で統一した HP やパンフレット等共通した媒体を使用するとともに、SNS の相互フォローやリポストなどによる情報拡散の協力など、連携した広報・PR を実施します。



両 VC の統一パンフレット



両 VC の統一 HP

・連携した紙媒体での発信

イベント等のポスターやチラシ等について、当協会が管理する都市公園等の施設と相互で配架するなど、連携した情報発信を行います。

また、当協会が年2回発行する公園情報誌「かながわパークナビ」において、自然公園の情報を発信し、都市公園等当協会の管理施設だけでなく、[REDACTED]で配架します。



かながわパークナビ

・巡回展示

共通のテーマで両 VC や都市公園等を含めた巡回展示を実施し、都市部を含め、広く多くの方に丹沢の自然への理解を促進するとともに、両 VC の PR にも繋がります。

【実績】都市公園での巡回展示（令和4年度）

VC 職員が丹沢で撮影した写真を用いた「とっておきの丹沢写真展」を座間谷戸山公園、相模原公園において開催しました。



相模原公園での展示

【実績】動物園での巡回展示（令和元年度）

センサーカメラの記録を用いた「丹沢山麓イキモノ撮影記～センサーカメラを仕掛けたら～」を野毛山動物園において開催しました。



野毛山動物園での展示

・フォトコンテストの開催

県立都市公園や丹沢・大山国定公園などを撮影対象としたフォトコンテストを毎年開催し、自然公園・県立都市公園等の風景や景観の魅力に触れ、みどり・環境の保全と創造の意識啓発に繋がります。

入賞作品展を県内各地の公園等で毎年実施するほか、入賞作品を用いたオリジナルカレンダーを作成・販売しています。

【実績】フォトコンテスト・展示・オリジナルカレンダー（令和5年度）

・第15回花とみどりのフォトコンテスト及び巡回展示

169名から606作品が応募、選ばれた37作品を県内16の都市公園において巡回展示し、入賞作品を用いたオリジナルカレンダーを県内の都市公園やVC、書店などで販売



巡回展示（秦野戸川公園）



オリジナルカレンダー

c ヒト・モノ・コトの共有



イ 利用の促進を図っていくため、指定期間中の年度の目標施設利用者数を設定し、設定の考え方も併せて記載してください。

指定管理期間中の年度の目標施設利用者数

項目	基準人数 令和 4 年度の 値 (2022)	令和 7 年度 (2025)	令和 8 年度 (2026)	令和 9 年度 (2027)	令和 10 年度 (2028)	令和 11 年度 (2029)
秦野 VC 利用者数	120,000 人	120,800 人	121,600 人	122,400 人	123,700 人	125,000 人
西丹沢 VC 利用者数	107,200 人	107,900 人	108,600 人	109,300 人	110,400 人	111,500 人

<設定の考え方>

最新の施設利用実績である令和 4 年度を基準とし、令和 11 年度には約 4%の利用者増を目標とします。VC の利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響により令和 2 及び 3 年度は大きく減少しましたが、令和 4 年度にはほぼ回復しており（対平成 30 年度比 秦野 VC96%・西丹沢 VC105%）、直近の施設利用動向を反映していることから基準としました。

近年、登山者人口は減少傾向が続きましたが、コロナ禍後の令和 4 年度には増加に転じています（出典：レジャー白書 2023）。また、今後の増加が見込まれる訪日外国人旅行者については、神奈川県内の主な訪問目的は「自然観光」が 50%を超えており、丹沢大山地域を訪れる外国人も増加すると考えられます。

このような状況を鑑み、SNS を活用した若年層への広報・PR や外国人観光客への対応等、多様な主体へ訴求することで、令和 9 年度までに約 2%の利用者増を目指します。

さらに、令和 9 年度に予定されている新東名高速道路の全線供用に伴い、これまでの首都圏に加え、新たに静岡県側から丹沢地域へのアクセス時間が短縮されるとともに、山北スマートインターチェンジの設置により、西丹沢地域へのアクセス性が向上します。Web での発信等、広域への PR も意識した広報に力を入れることで、遠方からの新たな登山者・観光客の来訪を促し、最終的に令和 11 年度には約 4%の利用者増を目指すとともに、自然環境への理解促進と安全登山の普及啓発をより進めていきます。



4 事故防止等安全管理

(1) 事故防止等安全管理

【実施方針】

- ・未然防止を第一に、万一の事故時の対応も含めマニュアルを整備し、職員研修や訓練を実施
- ・防災防犯事故情報の共有等、県、警察や消防等との連携協力関係を日頃から構築
- ・万一の事故や災害時等に、外国人や障がい者、高齢者等への対応が必要となるケースも想定した上で、日頃から準備し、きめ細かな対応を図る
- ・各種施設を管理する当協会の事故情報を「事故・不祥事防止会議」等で共有し、再発防止を徹底
- ・VC や屋外活動時の事故防止のみならず、丹沢の山岳事故防止にも貢献
- ・地震等の大規模災害発生時に帰宅困難者等の対応を行うなど、地域防災力の向上に寄与

ア 指定管理業務を行う際の事故防止等の取組内容

(ア) 利用者の事故防止対策

■ 館内危険箇所等の日頃の点検と対応

- ・子どもの予想外の動きによる事故防止：声掛けや見回り、備品や展示物のぐらつき等点検
- ・展示室内ストープでのやけど防止：ストープを柵で囲む(西丹沢 VC)

■ 野外プログラム等における事故防止対策

感知機等の装備を整え、下見や当日の活動、緊急時対応を実施

- ・下見では、 急な天候変化等に備えたエスケープルート、危険な動植物（スズメバチなど）、AED の設置場所などについて確認
- ・参加者には、事前にコース概要や必要な装備を伝える
- ・出発前に準備運動を行い、怪我の予防に努めるとともに、体調の悪い参加者がいないか確認

■ 防犯対策

- ・利用者への積極的な声掛けなどで、顔の見える関係を構築
- ・地元警察や消防、学校等と犯罪や事故情報に関する情報の共有やイベント等の開催情報の共有を図り、地域で一体となって防犯対策を行う
- ・神奈川県警察が発信する「ピーガルくん子ども安全メール」へ登録し、子どもや女性を犯罪から守るための情報（不審者情報等）を収集し、防犯に役立てる **【新規】**

■ 防火対策

- ・定期的な消防設備の点検(、電気製品及び周辺環境の点検(漏電防止の徹底)
- ・消防訓練の実施 

(イ) VC 職員の職務遂行時の事故防止対策

■ VC 勤務時の事故防止対策

 次のような安全対策を講じながら作業を実施します。

- ・床面から離れる作業(脚立等利用) 実施時には、ヘルメットを着用し、他の職員に声をかけてから実施
- ・修繕、植物管理等の作業時には、ヘルメット・長袖長ズボン等を着用 など

■ 自然公園内情報収集時の事故防止対策

 次のような安全対策を講じながら情報収集し、緊急時対応を実施します。

■車の運転に当たっての事故防止及び事故発生に備えた対応

- ・ 公用車は、順次ドライブレコーダーを搭載

イ 事故・不祥事等の緊急事態が発生した場合や安全管理の妨げとなりうる事案を認知した際の対応方針

(ア) 事故等への備えと発生時の対応

VC 館内や野外プログラムでの利用者の事故、VC 職員の職務遂行時の事故発生時には、事前の備えも含め、次のような対応をとります。

■事前の備え

- ・ 近隣医療機関の情報や警察、山岳救助隊、消防等関係機関の情報を職員で共有
- ・ 館内に救急箱と AED [REDACTED] を設置し、野外活動時は救急キットを携行するとともに、事前に AED 設置場所を確認
- ・ 上級救命講習(応急手当や AED 取扱い等を学ぶ) 相当以上の受講者を VC に配置するとともに、防災訓練時などに AED の取扱い等を訓練

[REDACTED] 訓練を実施(再掲)

- ・ 両 VC 共同で安全管理研修を実施

■事故等発生時の対応

- ・ 利用者などの安全確保を第一優先に、被害の最小化、速やかな報告・情報共有、事後対応、再発防止策まで下記のフローチャートに沿って着実に対応

■再発防止

- ・ 再発防止のため VC スタッフによる「事故防止対策会議」を開催し、事故原因の究明、再発防止対策の検証を行い、県自然環境保全センター及び当協会本部に報告するとともに VC の全職員に周知
- ・ 重大な事故等については、当協会本部が開催する「事故・不祥事防止会議」において各施設間で情報を共有するとともに、必要に応じて「事故対策委員会」を設置し、対応方策、原因究明、再発防止対策、職員への啓発等について協議

(イ) 災害への備えと発生時の対応

大雨等の異常気象及び大規模地震等の震災時には、事前の備えも含め次のような対応をとります。

a 大雨等の異常気象時

<両 VC 共通>

- ・ラジオや関係機関からの情報、気象庁の「高解像度降水ナウキャスト」や地元自治体の防災情報メール等を活用し、リアルタイムに情報を収集

<秦野 VC>

- ・[redacted] 電源取り出し可能な電気自動車を配備し **【新規】**、台風接近が予想されるなど停電の可能性が高まる際には特にフル充電とする
- ・[redacted] 大雨や台風の接近状況等に応じ、利用者への帰宅呼びかけ等を実施

<西丹沢 VC>

- ・大雨や大雪、台風の接近状況、アクセス道路である県道の状況等に応じ、利用者への帰宅呼びかけ等を実施するとともに、県自然環境保全センターと協議の上、閉館の判断をし、HP や SNS で周知

b 震災時

■ 事前の備え

災害に備え、非常食等の備蓄、必要な機器の整備、防災訓練等を実施します。

○ 備蓄

<秦野 VC>

[redacted]

<西丹沢 VC>

[redacted]

○ 地域の関係機関等との関係構築

<秦野 VC>

[redacted] 地域と連携し、次のような取組を実施します。

- ・消防署と連携した消防訓練や近隣施設と連携した防災訓練を実施
- ・避難場所である北中学校や西小学校等への誘導方法や帰宅困難者の受入体制について、事前に市や警察・消防等と調整

<西丹沢 VC>

- ・避難場所である旧三保中学校等への誘導方法や帰宅困難者の受入体制について、事前に町や警察・消防等と調整

○ 機器の整備

- ・通信手段の整備：

[redacted]

- ・発災時に滞留者等が連絡・情報収集ができるようフリーWi-Fiを整備

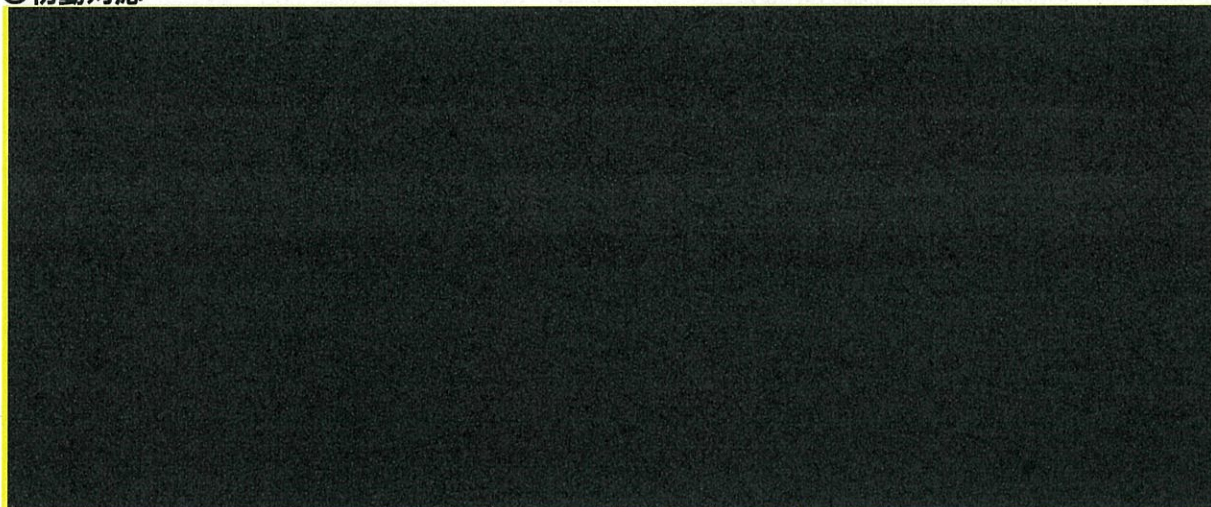
[redacted] **【新規】**

○ 訓練

- ・避難経路の確認や初動対応訓練、安否確認訓練を年1回以上実施

■震災発生時の対応

○初動対応



※緊急時の両 VC の体制確保については、「(カ) 業務継続計画について」 p.53 参照

○帰宅困難者対応

- ・地元自治体や警察、消防等と連携し、帰宅困難者等に対応



(ウ) 安全管理の妨げとなりうる事案への対応

犯罪予告、不審物や不審者等、VC の安全な利用の妨げとなりうる事案については、内容に応じ関係機関とも連携し、夜間等職員不在時も含め迅速な対応を図ります。



犯罪予告	・速やかに県自然環境保全センターに報告後、警察等へ通報、相談 ・巡回の強化、利用者の避難誘導、施設の保全、記者発表やマスコミ対応について、県自然環境保全センターと調整を図りながら対応
脅迫や不当な要求	・複数名で対応し、記録・警察等への通報など役割分担しながら毅然とした態度で対応 ・状況に応じて、当協会の顧問弁護士や警察へ相談
不審物や不審者情報	・速やかに県自然環境保全センターへ報告後、巡視の強化 ・不審者を確認した際は速やかに県自然環境保全センターに追加報告と相談後、警察へ通報 ・不審物の場合は、現場の安全確保を優先し、県自然環境保全センターへの報告と相談後、警察や消防へ通報 ・不審者と思しき方への対応は人権に配慮し慎重に対応

(エ) 外国人、障がい者、高齢者等への対応

想定されるケースごとに、適切な対応が図れるよう、ピクトグラムやコミュニケーションボード、などのツールを準備するとともに、日頃から、多様な利用者に対し、きめ細かな対応を行います。

想定するケース	対象者	対応内容
歩行が困難	高齢者、車椅子使用者、義足・人工関節使用者、視覚障がい者、内部障がい者、妊婦等	・避難時の職員同行
情報伝達が困難	聴覚障がい、言語障がい 高齢者、子ども、外国人	・筆談、コミュニケーションボードの活用 ・ピクトグラム  多言語表記の活用
いつもと違う状況への不安、混乱	知的障がい、精神障がい、発達障がい	・落ち着いた声で、ゆっくりとした会話

■ や多言語の活用

(オ) 不祥事案(個人情報の流出、管理瑕疵に伴う利用者の受傷等)を認知した際の対応

①不祥事防止策の徹底 ➡ ②発生時の迅速かつ誠実な対応 ➡ ③再発防止策

- ①組織として、日頃から研修などを通じて職員への不祥事防止の意識醸成を行うとともに、法令や当協会の 各種規程やガイドラインに基づき適切に業務を遂行することを徹底
- ②不祥事が発生した場合は、すぐに被害の拡大防止と状況の把握を行うとともに、組織として責任と誠意を持って役割分担しながら、被害を受けた方への連絡と謝罪、県への報告と早急な対応策の実施、警察やマスコミ対応などを行う。また、被害者の損害についても誠意を持って対応
- ③その後は再発防止に向けて、原因の究明や対策の検討等、組織として業務への反映や改善

(カ) 業務継続計画について

当協会では、大規模災害発生や感染症のまん延に備え、事業継続計画書(BCP)を策定しており、優先的に継続する重要な業務の設定、危機管理体制の整備、当協会本部に代わる災害対策本部の代替拠点等を設定し、VC 指定管理業務を含む法人としての事業継続を図ります。

■ 災害時の事業継続に特に必要となる人的バックアップと情報の保全対策について

<人的バックアップ>

県内で複数施設を管理しているスケールメリットを活かし、災害時等の事業継続に必要な人的バックアップを行います。

具体的には、 を整備しており、秦野 VC については、近接の秦野戸川公園等の職員による応援、西丹沢 VC については、秦野 VC や本部職員の応援で対応することとしています。

また、 を導入し、定期的に伝達訓練を行うことにより、勤務時間外に発災した場合にも職員の安否確認や出勤の可否等を迅速に把握します。【新規】【DX】

<情報の保全対策>

指定管理業務に係る文書等のデータについて、クラウドサーバー管理を導入し、VC や当協会本部発災時のデータ消去リスクに備えます。【新規】【DX】

ウ 急病人等が生じた場合の対応

(ア) 急病人等への対応

■事前の備え

- ・近隣医療機関の情報や警察、消防等関係機関の情報を職員で共有
- ・館内に救急箱と AED を配備し、野外活動時は救急キットを携行するとともに、事前に AED 設置場所を確認
- ・上級救命講習(応急手当や AED 取扱い等を学ぶ) 相当以上の受講者を VC に配置するとともに、消防訓練や防災訓練時などに AED の取扱い等を訓練

■発生時の対応



(イ) 感染症への対応

■日常の感染防止対策

- 常日頃から、感染症まん延防止対策として、次のような取組を行います。
- ・室内の小まめな空気の入替えや手洗い場への石鹸の設置等、換気や手指の衛生に留意
 - ・咳エチケットを徹底するとともに、利用者に求められた場合にはマスク等を着用
 - ・職員が感染症への罹患が疑われる体調不良の際は、無理をせず、自宅で休養
 - ・職員が感染した場合は自宅等で療養

■危険度が高い感染症が流行した際の対応

当初の新型コロナウイルス等、感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）上の位置付けが、2 類相当などの危険度が高い感染症が流行した際には、新型コロナウイルスまん延防止対策の経験を活かし、県と協議しながら次のような対応を図ります。

<利用者への協力の呼びかけ>

・体調が悪い時には利用を控える ・人と人との間をあける ・小まめな手洗いや消毒 ・咳エチケット

<管理運営>

・手指消毒液の設置 ・人の手が触れる部分の消毒 ・感染状況に応じたイベントの中止や人数制限



エ 山岳事故防止への貢献と発生時の対応

■山岳事故防止への貢献

- 次のような取組により、丹沢の山岳事故防止に貢献します。
- ・安全登山に必要な技術や知識等について学べるプログラムや展示を実施
※詳細は、「3 利用促進のための取組、利用者への対応」p.22～33 参照
 - ・安全登山のために必要な情報の収集と発信
※詳細は、「3 利用促進のための取組、利用者への対応」p.39～42 参照

■山岳事故発生時の対応

- ・登山者から救助依頼の電話が直接 VC に寄せられた場合には、警察への通報を促すとともに、VC からも必要に応じて山岳救助隊や警察署に連絡し、早期の搜索開始に協力
- ・救助や搜索の際には、警察や消防の待機場所等にも使用されることから、日頃から情報交換を密にするとともに、場所の提供等、救助活動に協力

5 地域と連携した魅力ある施設づくり

(1) 地域と連携した魅力ある施設づくり

当協会は長年にわたり、丹沢における VC の管理者として活動するなかで近隣の各施設、自治体等の行政機関、企業、交通事業者、活動団体や個人、地域住民等と信頼関係を築き、幅広い連携・協力体制を構築してきました。

今後この繋がりをより強固なものとし、地域と一体となってより質の高いサービスを提供するとともに地域の活性化・地域振興や丹沢大山の自然環境保全に貢献していきます。

ア 地域との協力体制の構築及びボランティア団体等の育成・連携の取組内容及び地域資源と連携した取組内容

VC の管理運営に当たっては、地域住民やボランティア、地元自治体、企業などと連携することで、効果的・効率的にサービスを提供します。

ボランティア活動等の活動拠点として、必要な情報の提供や活動紹介、活動場所の提供等、育成・活性化に向けた支援に積極的に取り組みます。

さらに、丹沢の重要な資源である豊かな自然や人材の活用及び各施設との連携、VC のイベントやプログラム、情報発信等を通じて、地域の活性化・地域振興に貢献します。

<基本方針>

- ・地域との協力体制の構築による施設の効果的・効率的運営
- ・ボランティア団体等の育成・活性化に向けた連携・支援
- ・地域をよく知る地域人材の積極的な活用による地域経済への貢献と利用者サービスの向上
- ・地元自治体が実施する地域振興の取組への積極的な協力・連携
- ・丹沢の利用や周遊促進に向けた地域と連携したプログラムの実施や広報・PR
- ・山岳事故の防止等、丹沢の安全・安心確保への貢献
- ・丹沢の重要な資源である「自然」の保全・再生への貢献

(ア) 具体的な取組内容

a 地域との協力体制の構築

施設の維持管理や情報収集、発信、展示や各種プログラム、事故防止等の丹沢の安全安心の確保、いずれの業務においても地域との協力体制を構築し、進めていきます。

■ 周辺類似施設との連携

調査研究や野外体験などを行う施設とは、情報交換や資料の貸し借りなどの協力を行うことで、相互の自然に関する学習効果を高めます。

主な連携先	県自然環境保全センター、 [redacted] など
-------	-------------------------------

b ボランティア団体等の育成・活性化に向けた連携・支援の取組

■ ボランティア活動の支援

各種プログラムの実施や企画展示の開催等に当たっては、[redacted] と連携するとともに、情報提供や会報誌へ執筆、広報協力等、ボランティア活動を積極的に支援します。また、VC が丹沢で活動するボランティアの活動拠点としての役割を担うことで、活動の活性化や持続化に寄与します。

【実績】

<秦野 VC>

[redacted]

<西丹沢 VC>

[redacted]

【新規】

- ・フレンズ制度（持ち込みイベントや展示の相談窓口設置）の導入（再掲・p.24 参照）
- ・木橋補修の新たな参加者を募る仕組みづくり（西丹沢 VC・再掲・p.25 参照）

■ 県自然公園指導員の育成・連携

- ・2年ごとに募集される県のボランティアである県自然公園指導員の研修会には、要望に応じて VC 職員が講師として参画
- ・県自然公園指導員が巡視を行う前に VC へ立ち寄った場合には情報提供を行い、下山後は山中で見つけた動植物などの問い合わせにも対応
- ・県自然公園指導員によって得られた最新情報は、掲示板や問い合わせ対応などで活用

c 地域人材の活用

■ VC における職員の雇用

- ・VC の職員はできる限り地元の人材を雇用し、地域経済の活性化に貢献するとともに、地域に根差したきめ細かな施設運営を実施

■ 専門性の高い地域人材との積極的な連携

- ・ボランティアやパークレンジャー、県自然公園指導員などと連携して、VC 職員だけでは把握しきれない丹沢の自然情報等を収集
- ・自然教室等のプログラムや企画展示等の開催に当たっては、地域を良く知り、地域で活動する専門家（学識者や画家・写真家等のクリエイター等）に講師や展示物作成の依頼をするなど積極的に連携を図る

【実績】

<秦野 VC>

「むしオヤジ『たての先生』と生きもの観察に出かけよう！」

[redacted]

<西丹沢 VC>

[redacted]

d 地元自治体の地域振興の取組への積極的な協力・連携

秦野市及び山北町は登山や森林セラピーでの地域振興に力を入れており、秦野市の情報サイト OMOTAN や市町の山系イベント・森林セラピーの広報などに積極的に協力していきます。

■ 秦野 VC×秦野市の連携

○ 観光ガイドの協力

秦野市からの要望に合わせ、ガイド等の協力を行い市の観光振興へ貢献します。

【実績】 R2 年度 はだのブランド推進協議会の「はだ恋みつけもんの旅」への協力

○ 山系イベントへの協力

○ はだの表丹沢森林セラピーへの協力

秦野戸川公園のセラピーコースのほか、秦野市内のセラピーロードについても公園とともに広報します。

○ 「OMOTAN」への協力

秦野市が推進する表丹沢のブランド化「OMOTAN」への取組に協力します。

【実績】

R4 年度：OMOTAN サイトの開設に当たり写真等資料の提供協力（再掲）

R5 年度：表丹沢ツーリズム連絡会議へ委員として参加
秦野市が主催する OMOTAN 公式ガイド育成講座（丹沢の自然）へ VC 職員を講師派遣



ガイド育成講座

■ 西丹沢 VC×山北町（県）の連携

○ 山系イベントへの協力

町観光協会主催「西丹沢山開き」では、VC をイベント参加者の交流や情報交換の場として提供するなど協力します。

○ 山北町森林セラピーへの協力

山北町の森林セラピーイベントの広報協力やイベント時の館内利用に協力するなど、森林セラピーの振興に貢献します。

○ 県の未病いやしの里の駅（森の駅）

「未病を改善する」取組を体験できる施設として登録されており、ヨガなどのイベントを行うほか VC 利用者が登山前後などに利用できるよう、血圧計を設置します。



山北町が実施する
森林セラピーイベントの協力

e 丹沢の利用や周遊促進に向け地域と連携したプログラムの実施や広報・PR

地域と連携し、VC だけでなく丹沢全体の利用や周遊を促進するようなプログラムを提供し、広報・PRを行います。

■ 地域と連携した利用・周遊促進

「カードを集めて丹沢図鑑を作ろう！」（再掲）【拡充】

現在両 VC で配布している丹沢ワイルドライフカードについて、

連携し、これらの施設でも配付します。コレクション性を高めリピート利用や地域の周遊を促します。



丹沢ワイルドライフカード

○セルフガイド

秦野 VC では、公園や周辺を散策しながら、気軽に自分のペースで自然を学べる「セルフガイド」を更に追加、配布する（再掲）**【拡充】** ほか、西丹沢 VC ではチャレンジルートマップを作成、配布することで地域の周遊を促進します。

チャレンジルート＜西丹沢 VC＞ **【新規】**

丹沢のメインルート全域を巡る全長約 100 km のロングトレイルコース「チャレンジルート」のマップを作成します。

静岡県側を含む地元自治体や周辺施設と連携を図り、自然環境だけでなく宿泊施設や見どころ、立ち寄りスポットをマップで紹介します。



マップのイメージ

○登山記録証

丹沢の登山履歴を記録するシートを VC 窓口で配布することでリピート利用や地域の周遊を促します。

※詳細は、「3 利用促進のための取組、利用者への対応」p.45～46 参照

※詳細は、「3 利用促進のための取組、利用者への対応」p.46 参照

■都市部の施設と連携した丹沢の魅力・自然の大切さの普及啓発

○都市公園等における巡回展（再掲）

都市部にある都市公園を中心に、両 VC の巡回展示を実施

※詳細は、「3 利用促進のための取組、利用者への対応」p.47 参照

○フォトコンテストの開催（再掲）

※詳細は、「3 利用促進のための取組、利用者への対応」p.47 参照

■広報 PR にかかる連携

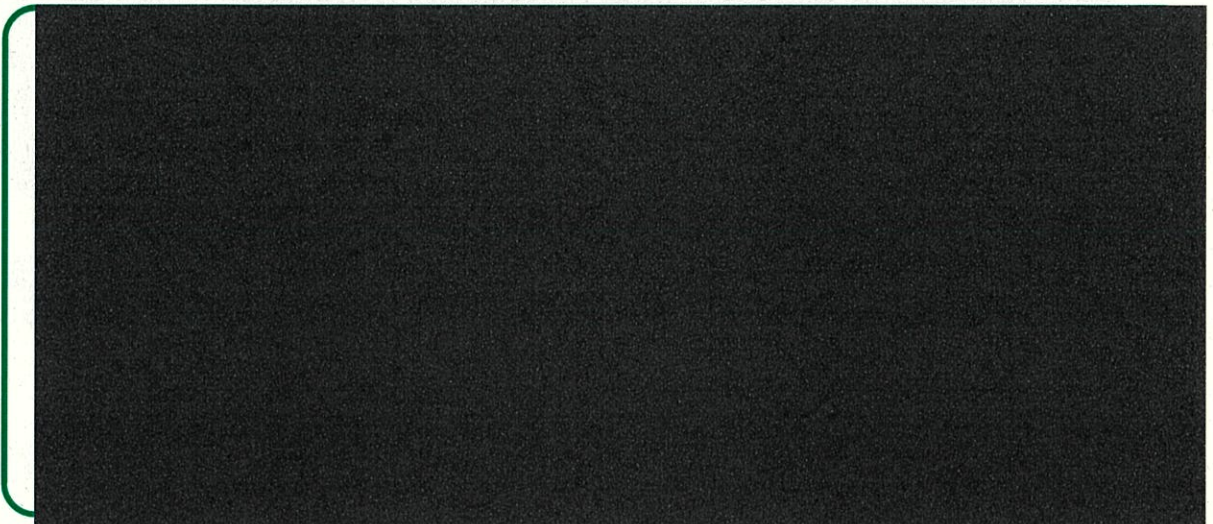
○交通事業者との連携

- ・交通機関等を用いて丹沢地域を訪れる方々に、地域や自然の魅力を知ってもらうため交通事業者との連携を図る

・ [redacted]

[redacted] など地元の交通機関と連携した広報・PR を実施（再掲）

※詳細は、「3 利用促進のための取組、利用者への対応」p.35 参照



○地元施設と連携した広報・情報発信

<VC の情報を地元施設から発信>

[redacted]

<地域の情報を VC から発信>

[redacted]

[redacted]

f 事故防止等、丹沢の安全・安心確保への貢献

丹沢大山地域へ訪れる方々が安全に安心して利用してもらえるよう、日頃から関係機関との情報交換や連携を深めています。

■山岳遭難事故の未然防止対策（適正で安全な利用のための情報発信や普及啓発）

警察等と連携した登山計画書提出呼びかけ、安全登山に関するプログラムや展示等により安全登山啓発を行います。

<秦野 VC>

[redacted]

[Redacted]

<西丹沢 VC>

[Redacted]

【実績】

[Redacted]

■ **山岳事故発生時の警察・消防への協力（再掲）**

- ・登山者からの救助依頼の電話が直接 VC に寄せられた場合には、警察への通報を促すとともに、VC からも必要に応じて山岳救助隊や警察署に連絡し、早期の捜索開始に協力
- ※詳細は、「4 事故防止等安全管理」 p.54 参照

■ **大規模災害発生時の連携**

<秦野 VC>

[Redacted] 災害時に備え、消防署と連携した消防訓練や近隣施設と連携した防災訓練を実施するなどとともに、発災時には避難者や帰宅困難者等の対応などに当たります。

<西丹沢 VC>

[Redacted]

※詳細は、「4 事故防止等安全管理」 p.51～52 参照

g 丹沢の重要な資源である「自然」の保全・再生への貢献

丹沢の重要な資源である自然を保全・再生するため、利用や周遊の促進を図るだけでなく、丹沢大山自然再生計画の推進に貢献します。

※詳細は、「12 その他」 p.86～87 参照